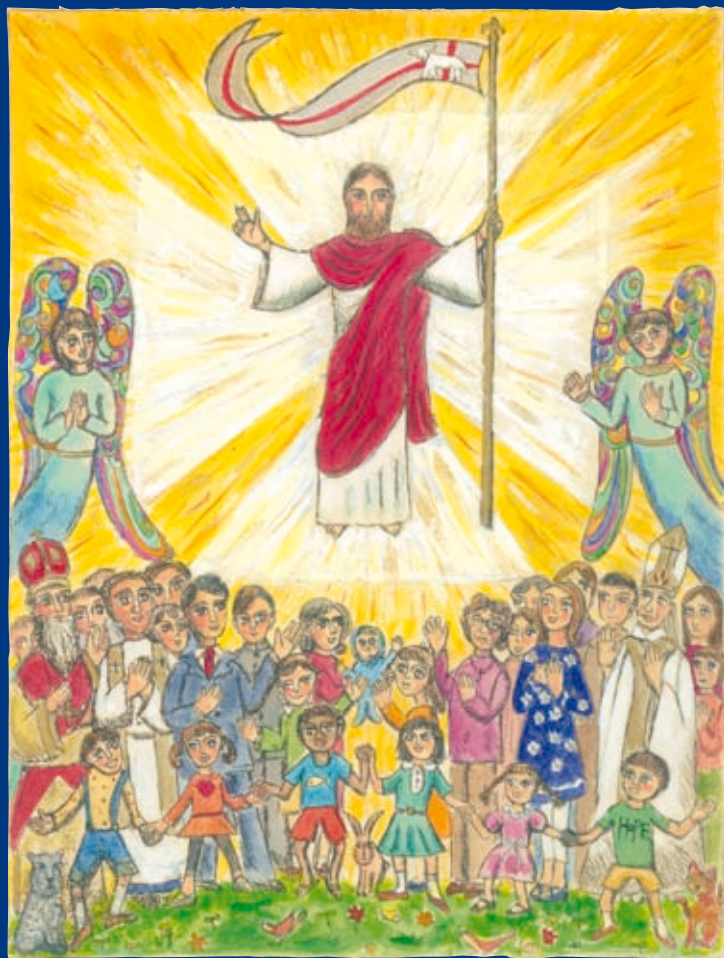


# 2012年 キリスト教一致祈禱週間

1月18日～25日



わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます

—コリント15：51—58参照

日本キリスト教協議会  
カトリック中央協議会

この小冊子は、世界教会協議会(WCC)と教皇庁キリスト教一致推進評議会が共同発行した資料をもとに、日本キリスト教協議会信仰と職制委員会とカトリック中央協議会エキュメニズム部門が共同作業によってまとめたものです。年間を通じて、合同の集会などご利用ください。

聖書本文の引用は、『聖書 新共同訳』(日本聖書協会、2000年)を使用しています。

# 目 次

キリスト教一致祈祷週間を準備する方々へ	2
聖書テキスト	4
2012年のテーマの解説	5
2012年キリスト教一致祈祷週間の準備	10
エキュメニカル礼拝	12
初めに	12
礼拝式文	14
八日間の聖書の黙想と祈り	21
ポーランドの教会の祈り	38
ポーランドにおけるエキュメニズムの状況	47
キリスト教一致祈祷週間に関する歴史上の重要な年	54
キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧(1968-2012年)	55

表紙：原田陽子

# キリスト教一致祈禱週間を準備する方々へ

## 一致を求めて一年間を通じて

キリスト教一致祈禱週間は、北半球では、伝統的に1月18日から25日に行われます。この日程は、1908年にポール・ワトソン（1863－1940年）によって提案されたもので、当時祝われていた聖ペトロの祝日（ローマの聖ペトロの使徒座の祝日。現在では2月22日に祝われる）と聖パウロの祝日（聖パウロの回心）を結ぶ期間です。すなわち、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では、1月は休暇の季節なので、他の日程、たとえばペンテコステ（聖霊降臨の祝日）前後に変更する地方もあります。これは1926年に信仰と職制運動が提案した日程ですが、これも教会の一致のためには象徴的で意義深い日です。

日程についてはこのように弾力的にできることをご配慮ください。この資料を年間を通じて有効な招きとして受け止めてくださり、諸教会が既に与えられている交わりを表現し、さらにキリストの御心である完全な一致を求めて共に祈る機会として用いられることを願っています。

## 各地の状況に合わせてテキストを用いる

この資料は以下のようなことを考慮して作成されています。

すなわち、日時の限定はなく、いつでも各地域で実践できるときに用いることができます。その場合、各地の礼拝形式や社会的・文化的状況に応じて実施されることが適切です。そのためには、諸教会が協力して実行するようなエキュメニカルな企画が必要です。

ある地域では、エキュメニカルな諸機関が既に設けられているでしょう。そうでない地域では、この企画が契機となって、そのような機関・組織ができればよいと願っています。

## キリスト教一致祈祷週間資料の使い方

- \* 諸教会やキリスト教共同体の諸団体が、協力して一つの合同礼拝を行う場合に、この「エキュメニカル礼拝式文」をそのまま使うことができます。
- \* 諸教会・諸団体は、それぞれ各自の礼拝の中に、この資料を導入して用いることができます。たとえば、「エキュメニカル礼拝式文」や「八日間の聖書の黙想と祈り」、「ポーランドの教会の祈り」の中から資料を得ることができます。
- \* 一週間を通して祈り、週の各曜日ごとに礼拝を行う形式を守る共同体は、資料として「八日間の聖書の黙想と祈り」を使うことができます。
- \* キリスト教一致祈祷週間のテーマについての聖書研究を行いたい場合には、「八日間の聖書の黙想と祈り」に提示されている聖句や黙想を基礎資料に使うことができます。また、ディスカッションは日毎の執り成しの祈りで締めくくることができます。
- \* 一人で祈りたい人々も、自分の祈りの思いに焦点を合わせるのに役立つような資料を見いだすことができるはずです。それをを用いることによって、自分たちが、キリストの教会の目に見えるいっそう大きな一致のために祈っている世界中の人々との交わりの中にいることを忘れずにいることができるでしょう。

# 2011年キリスト教一致祈禱週間

## 聖書テキスト

わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。

「死は勝利にのみ込まれた。

死よ、お前の勝利はどこにあるのか。

死よ、お前のとげはどこにあるのか。」

死のとげは罪であり、罪の力は律法です。わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神に、感謝しよう。わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。

(コリントの信徒への手紙一15章51 - 58節)

## 2012年のテーマの解説

「わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます」

(一コリント15：51 - 58参照)

2012年のキリスト教一致祈禱週間の祈りは、ポーランドで積極的に活動するローマ・カトリック教会、正教会および古カトリック教会とプロテスタント教会から選ばれた代表によって構成された作業グループによって準備されました。

ポーランドにあるさまざまなエキュメニカルな活動グループの代表者たちが集まり、活発な議論を重ねた結果、次のテーマに焦点を当てることが決められました。すなわち、特にキリストの体である教会の目に見える一致のために祈るわたしたちの祈りにとって、キリストへの信仰には変える力があるということです。このことは、聖パウロがコリントの教会に向けて語った言葉に基づきます。パウロは、復活の神秘におけるキリストの勝利を通してわたしたちに与えられる勝利に比べれば、わたしたちの現在の生活は（それがどれほど「勝利」や「敗北」を含むように見えても）つかの間のものでしかないと言います。

なぜこのテーマを選んだのでしょうか。

ポーランドの歴史は、敗北と勝利の連続によって特徴づけられます。わたしたちは、ポーランドが外国の力、また敵対する支配体制によって何度も侵略され、分割され、抑圧されてきたことを思い起こすことができます。あらゆる隷属状態に打ち勝とうとする絶えざる努力と、自由への切望こそがポーランドの歴史の特徴です。この二つの特徴が、ポーランドの生活に著しい変化をもたらしてきたのです。しかし勝利のあるところには敗者もいます。敗者は勝者と喜びと勝利を分かち合うことができません。

このポーランドの独自の歴史が、今年的一致祈禱週間テキストを作成したエキュメニカルなグループの導きとなりました。そこからエキュメニカルなグループは、「勝つ」とか「負ける」ということにはどのような意味があるのかを深く考察しました。とりわけ「勝利」という言葉は戦勝の意味で理解されるためです。しかし、キリストがわたしたちに示されたのはまったく違った形の勝利

なのです。

2012年、サッカーの欧州選手権がポーランドとウクライナ共和国との共催で行われます。これは数年前ならば決してありえないことでした。欧州選手権は、多くの人にとってもう一つの「勝利」のしるしです。何億人のサッカーファンが、ヨーロッパのこの地で試合を行うチームのどこが勝つかというニュースを知ろうとするからです。このような例を考えることにより、わたしたちは、スポーツばかりでなく、生活や共同体の中で勝利できなかった人々の苦しみについて考えるよう促されます。だれが敗者を心に留めるでしょうか。それも、さまざまな状況や事情によって勝利できなかったために敗北を喫した敗者のことを。競争は、スポーツだけでなく、政治、ビジネス、文化においても、また教会生活においてさえ常に見いだされます。

イエスの弟子たちが「だれがいちばん偉いか」を論じ合ったことから（マルコ9：34）、勝利欲の強さが分かります。しかし、イエスがそれに対して言われた言葉はたいへん単純なものでした。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」（マルコ9：35）。この言葉は、互いに仕え合い、助け合い、後回しにされ、忘却され、除け者にされた人の自尊心を高めることを通して、勝利を得ることについて語ります。すべてのキリスト者にとって、このような謙遜な奉仕の最高の模範はイエス・キリストです。キリストの死と復活による勝利です。わたしたちは、主の生涯、業、教え、受難、死と復活の中に、現代の信仰に基づく勝利の姿を指し示すものを探求したいと思います。この姿は、謙遜と奉仕と福音への忠実の精神をもって行う社会へのかかわりによって表されます。イエスは、これから起こる受難と死を前にして、世が信じるようになるために弟子たちを一つにしてくださいと祈られました。このような「勝利」は、霊的な変容、すなわち回心を通して初めて可能となります。だからわたしたちは今年の黙想のテーマとして、パウロが諸国民に語った言葉を選びました。その目的は、すべてのキリスト者を神と隣人への奉仕において一つにまとめる勝利に達することです。

わたしたち（また、わたしたちが属している伝統）は、教会の目に見える一致を祈り求めることによって、変えられ、キリストの似姿に似せて造り変えら



れます。わたしたちが祈る一致は、自分たちが慣れ親しんできた教会生活の形を刷新することを求めます。これはすばらしい展望ですが、わたしたちにある種の恐れも抱かせます。わたしたちが祈る一致は、単なる「心地よい」友愛や協力ではありません。それは、互いの競争を進んでなくすことを求めるのです。わたしたちは、互いに心を開き、賜物を互いに与え合い、受け取り合わなければなりません。それは、キリストに結ばれた新しい命にあずかるためです。キリストに結ばれた新しい命こそが、唯一まことの勝利なのです。

すべての人は神の救いの計画の中で場所を与えられています。キリストは御自分の死と復活を通して、勝者と敗者の違いにかかわりなく、すべての人を抱き寄せます。それは、「信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るため」(ヨハネ3：15)です。わたしたちも主の勝利にあずかることができます。主を信じさえすれば、容易に善をもって悪に勝つことができるからです。

## 八日間の聖書の黙想と祈り——キリストにおけるわたしたちの変化

キリスト教一致祈祷週間の間、わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの勝利を通してわたしたちが皆変えられることを、いっそう深く信じるよう招かれます。聖書朗読、解説、祈り、考察のための問い——これらはすべて、現代世界において、また現代世界に対して生きるキリスト者の生活とキリスト者の一致にとって、このような変化が持つ意味のさまざまな側面を探求します。わたしたちはキリストの仕える姿を仰ぎ見ることから始めます。この旅路に導かれて、わたしたちは最後に、十字架と復活の道によるキリストの支配を記念します。

### 第1日 <sup>しもべ</sup> 僕であるキリストによって変えられる

「人の子は仕えるために来た」(マルコ10：45参照)

第1日に、わたしたちは、仕えることを通して勝利へと向かう道を歩むイエスと出会います。イエスは「仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た」(マルコ10：45)方です。それゆえ、イエス・キリストの教会は、奉仕する共同体です。異なる賜物を人

類に対する共通の奉仕に用いることによって、キリストにおけるわたしたちの一致が目に見えるものとなります。

## 第2日 主を忍耐強く待ち望むことを通して変えられる

「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」(マタイ3:15)

第2日のテーマは、忍耐強く主を待ち望むことです。どのような変化を行うためにも、堅忍と忍耐が必要です。いかなる変化を神に祈り求めるにせよ、その祈りは主の約束に信頼し、信じます。主を待ち望むことは、キリスト教一致祈祷週間に教会の目に見える一致を祈るすべての者にとって不可欠です。あらゆるエキュメニカルな活動は、時間、互いに対する関心、そして共同の行動を求めます。わたしたちは皆、キリスト者を一致させる聖霊の働きに協力するよう招かれています。

## 第3日 苦難しもべの僕によって変えられる

「キリストもわたしたちのために苦しみを受けられたからです」(一ペトロ2:21参照)

第3日は、キリストの苦しみを考察するよう招きます。キリスト者は、苦難の僕であるキリストに従って、苦しむすべての人と連帯するよう招かれています。キリストの十字架に近づけば近づくほど、わたしたちも互いに近づきます。

## 第4日 悪に対する主の勝利によって変えられる

「善をもって悪に勝ちなさい」(ローマ12:21)

第4日は、わたしたちを悪との戦いへと深く導きます。キリストにおける勝利は、神の被造物を傷つけ、わたしたちを互いに引き離すすべてのものに打ち勝つことです。わたしたちはイエスと結ばれて、この新しい命にあずかるよう招かれています。そのためにわたしたちは、善に対する新たな信頼と喜びをもって、イエスと共に世の不正と戦います。分裂しては、現代世界の悪に勝つことができません。

## 第5日 復活した主の平和によって変えられる

「イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた」(ヨハネ20：19)

第5日には、復活した主を記念します。復活した主は、死と闇の世界に対する偉大な勝利者です。この方は、恐れによって麻痺した弟子たちを一致させます。主は、わたしたちに、命と、来るべき御国のために働くという、新たな展望を開きます。復活した主はすべての信じる者を一致させ、力づけます。平和と一致は、復活により造り変えられたことの証明です。

## 第6日 神の揺るぎない愛によって変えられる

「世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です」(一ヨハネ5：4 参照)

第6日は、神の揺るぎない愛に目を注ぎます。過越の神秘は、この揺るぎない愛を示して、わたしたちを新たな信仰の道へと招きます。この信仰が、恐れに打ち勝ち、聖霊の力へとわたしたちの心を開きます。信仰は、キリストとの友愛へと、また互いの友愛へとわたしたちを招きます。

## 第7日 善い羊飼いによって変えられる

「わたしの羊を飼いなさい」(ヨハネ21：17)

第7日の聖書の箇所は、主が羊の群れを強めてくださることを示します。わたしたちは、善い羊飼いに従って、主にあって互いに強め合い、無力な者、迷い出た者を支え、力づけるよう招かれます。羊飼いはただ一人。わたしたちはその民です。

## 第8日 キリストの支配によって一致する

「勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう」(黙示録3：21)

キリスト教一致祈祷週間の最終日は、キリストの支配を記念します。わたし

私たちはキリストの勝利によって、希望をもって将来に向かうことができるようになります。この勝利は、豊かな命を主と共に、また互いに分かち合うことからわたしたちを引き離すすべてのものに打ち勝ちます。キリスト者は、互いの一致が何よりも神が与えてくださる賜物であることを知っています。わたしたちは、分裂をもたらすすべてのものに対するキリストの栄光の勝利にあずかるのです。

## 2012年キリスト教一致祈祷週間の準備

今年のキリスト教一致祈祷週間の冊子の草案は、2010年の2月から6月にかけて作成されました。草案を作成したのは、ポーランド司教協議会－ポーランド・エキュメニカル協議会対話委員会が招集した代表者のグループです。草案作成に携わられた方々、特に以下の方々に感謝を表したいと思います。

エドワード・パスレーキ（ポーランド合同メソジスト教会総合監督、ワルシャワ）

クシシュトフ・ニトキエヴィチ（ローマ・カトリック教会サンドミエシュコ教）

モニカ・ワルス（ローマ・カトリック教会、ユジェフ）

カリナ・ヴォイチェホフスカ（福音ルーテル教会、ワルシャワ）

アンドジェイ・ゴンタレック（ポーランド・カトリック教会、ルブリン）

イレネウシュ・ルーカス（福音ルーテル教会、ワルシャワ）

ヘンリク・ポプロキ（ポーランド自治正教会、ワルシャワ）

スワヴォミール・パヴヴォフスキ（ローマ・カトリック教会、ルブリン）

ここに示したテキストは、世界教会協議会信仰職制委員会と教皇庁キリスト教一致推進評議会が任命した国際委員会の会合によって最終的にまとめられました。国際委員会は2010年9月にワルシャワのカトリック司教協議会事務局において開かれました。温かくもてなして下さったカトリック司教協議会と司

教協議会会長に感謝します。国際委員会は、ポーランド・エキュメニカル協議会議長のエレミアス大司教、およびポーランドでの作業グループを組織した、ポーランド司教協議会エキュメニズム部門委員長のタデウス・ピカス司教にも感謝します。さらに、作業グループのコーディネーターを務めたイレネウシュ・ルーカス牧師（福音ルーテル教会）とスワヴォミール・パヴヴォフスキ師（ローマ・カトリック教会）および国際会議の作業を支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

## エキュメニカル礼拝

「わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます」

(一コリント 15 : 51 - 58 参照)

### 初めに

2012年のキリスト教一致週間のためのエキュメニカル礼拝はポーランドからわたしたちのもとに届いたものです。ポーランドのエキュメニカルなグループは、喜びと逆境との長い歴史を生き抜いてきたポーランドのキリスト者の経験に基づく礼拝を作成しました。ポーランドの歴史は、諸外国の力と敵対する支配体制による一連の敗北、勝利、侵略、分割によって特徴づけられます。隷属状態に打ち勝とうとする絶えざる努力と自由への切望が、ポーランドの歴史の特徴です。

今年の礼拝のテーマは、コリントの信徒への手紙一 15 章 51 - 58 節から取られました。この箇所は、特にキリストの体である教会の目に見える一致のために祈るわたしたちの祈りにとって、キリストへの信仰には変える力があるということ語ります。わたしたち（また、わたしたちが属している伝統）は、教会の目に見える一致を祈り求めることによって、変えられ、キリストの似姿に似せて造り変えられます。これはすばらしい展望ですが、わたしたちにある種の恐れも抱かせます。わたしたちが祈る一致は、自分たちが慣れ親しんできた教会生活の形を刷新することを求めます。わたしたちが祈る一致は、単なる「心地よい」友愛や協力ではありません。それは、互いの競争を進んでなくすことを求めるのです。わたしたちは、互いに心を開き、賜物を互いに与え合い、受け取り合わなければなりません。それは、キリストに結ばれた新しい命にあずかるためです。キリストに結ばれた新しい命こそが、唯一まことの勝利なのです。

## 礼拝の構成

### I) 開会

地域の習慣に従って、入祭の讃美歌が歌われ、続いて開会の祈り、悔い改めの式が行われます。

### II) 言葉の典礼

聖書から三つの箇所が読まれます。コリントの信徒への手紙一15章の朗読は今年のテーマにとって不可欠です。その後、説教ないし講話、または聖書朗読箇所の解説が行われます。その後、信仰告白（信条）を唱えることができます。

### III) 一致と変容のための祈り

執り成しの祈りの目的は、一致と、さまざまな状況の変容です。続いて平和の挨拶を行います。

**平和の挨拶と「オブワテク」** ポーランドでは、「オブワテク」という特別なウエハースを分けて食べるという独特の習慣があります。これは、クリスマス・イブの食事の前に家庭で、またクリスマスの教会の集会で、また職場でも行われます。ポーランドの人々はこの習慣を大切にしています。国内でも海外でも、この習慣は、教派の異なる人だけでなく、無宗教者によっても行われます。人々はウエハースを割って分け合い、互いを祝福します。ウエハースを分かち合うことは、主の訪れを受けた人々の一致と愛と赦しを表します。「オブワテク」はユーカリストではありませんが、ユーカリストに似ています。それは、パンの家（ベツレヘム）に生まれ、命のパンとなられた方である、イエス・キリストの現存を象徴します。

「オブワテク」もウエハースもない場合には、パンを用いることができます。

「平和の挨拶」は、地域の習慣に従って行うこともできます。

### IV) 閉会

「八日間の聖書の黙想と祈り」のテーマに基づく約束の祈りを行います。礼拝は、地域の習慣に従った祝福で締めくくられます。

# 礼 拝 式 文

## I) 開会

### 入祭の讚美歌または前奏

司式者と奉仕者が入場する。

### 挨拶

司式者：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりがあなたがた一同  
と共にありますように。

全 員：また、あなたの霊と共に。

### 導入の言葉

挨拶もしくは参加者の紹介の後、礼拝のテーマに導くための短い導入を行う。

司式者はたとえば次のように述べる。

司式者：わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつく  
わけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられ  
ます。

全 員：わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神  
に、感謝しよう。

司式者：キリストにおいて神は勝利を取られました。

勝利を取めるためには、努力と戦いが必要です。わたしたち（また、  
わたしたちが属している伝統）は、教会の目に見える一致を祈り求め  
ることによって、変えられ、キリストの似姿に似せて造り変えられま  
す。そのためにキリスト者は共に努力し、イエス・キリストの模範に  
倣って、勝ち誇ることなく、謙遜に、神と隣人に奉仕します。一致を  
求めるわたしたちは、このような態度を与えてくださるよう神に願ひ  
ます。



## 開会の祈り

司式者：全能の神よ。

あなたはイエスを通してわたしたちに語られました。

「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」と。

わたしたちはあなたの御前に進み出ます。

あなたの勝利は十字架の無力さを通して勝ち取られたことを知っているからです。

わたしたちはここに集って祈ります。あなたの教会を一つにしてください。

この一致があなたの霊の与えてくださる賜物であることを謙虚に受け入れさせてください。

この賜物を通してわたしたちを造り変え、

わたしたちをさらに御子イエス・キリストに似た者としてください。

全 員：アーメン。

## 悔い改めの祈り

司式者：全能の神よ。わたしたちはキリストにおいて一致を与えられたにもかかわらず、分裂したままです。わたしたちを憐れんでください。

全 員：わたしたちを憐れんでください。（あるいは「キリエ・エレイソン」と歌う）

司式者：わたしたちは福音を耳にしても、心は頑なです。わたしたちを憐れんでください。

全 員：わたしたちを憐れんでください。

司式者：わたしたちは兄弟姉妹の内におられるあなたに仕えることができません。わたしたちを憐れんでください。

全 員：わたしたちを憐れんでください。

司式者：アダムとエバの不従順がわたしたちに苦しみと死をもたらしました。被造物は傷つき、引き裂かれました。わたしたちを憐れんでください。

全 員：わたしたちを憐れんでください。

(しばらくの間、沈黙する)

司式者：全能の神がわたしたちを憐れみ、わたしたちの罪を赦し、永遠の命に導いてくださいますように。

全 員：アーメン。

## Ⅱ) 言葉の典礼

### 聖書朗読

ハバクク書3章17－19節

コリントの信徒への手紙一15章51－58節

ヨハネによる福音書12章23－26節

### 説教

しばらくの間、沈黙。または奏楽。

### 信仰告白

使徒信条もしくはニカイア・コンスタンティノポリス信条を唱える。

### 讃美歌

「オプワテク」を会場の前に運び、中央の卓上に置く。

## Ⅲ) 一致と変容のための祈り

司式者：わたしたちに勝利を賜ったキリストに結ばれて、神に祈りましょう。

キリストの体である教会のために祈ります。聖霊を通してわたしたち

に与えられた一致を本当に生きることができますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：諸教会の指導者たちのために祈ります。彼らが、すべてのキリスト者が招かれている一致に忠実であることができますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：世界の諸国民のために祈ります。彼らが互いに平和のうちに過ごし、万人にとっての正義を実現することができますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：すべての人のために祈ります。わたしたちが地球の善い管理者であることができますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：現代社会の人々のために祈ります。わたしたちが造り変えられ、互いにいたわり合うことができますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：病気の人、苦しむ人のために祈ります。彼らがあなたのいやしによって変えられますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：すべての家庭のために祈ります。困難と喜びがあなたの愛によって満たされますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：死に直面する人々のために祈ります。あなたが共にいてくださることによって彼らが慰められますように。神よ、あなたはわたしたちの力。

全 員：御恵みによってわたしたちを変えてください。

司式者：主よ、わたしたちの真ん中に立ち、一致と平和をお与えください。

全 員：アーメン。

## 主の祈り

司式者：弟子たちがイエスに「どのように祈ればよいでしょうか」と尋ねると、

主は答えて言われました。祈るときには、こう言いなさい。

全 員：天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。

アーメン。

(聖公会／ローマ・カトリック共通)

(「主の祈り」は歌うこともできる。他の訳を用いてもよい)

## 平和の挨拶と「オブワテク」の分かち合い

ポーランドでは、クリスマスに家庭や教会で「オブワテク」という特別なウエハースを分けて食べるという独特の習慣がある。人々はウエハースを割って分け合い、互いを祝福する。ウエハースを分かち合うことは一致と愛と赦しを表す。平和と一致のしるしとして「オブワテク」を行うことを勧める。

司式者：主の平和がいつもあなたがたと共にありますように。

全 員：また、あなたの霊と共に。

司式者：互いに平和の挨拶を交わしましょう。

## Ⅳ) 閉会

## 讚美歌（このとき献金を集めることができる）

### 約束の祈り

司式者：わたしたちは、使徒パウロがコリントの信徒への手紙一（一コリント 15：57－58）の中に記していることを思い起こします。

わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神に、感謝しよう。わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなた<sup>が</sup>は知っているはず<sup>です</sup>。

わたしたちを一致へと導いてくださる、主がほめたたえられますように。父よ。わたしたちは、キリストにおけるわたしたちの一致の深まりを祈るために、今年もキリスト教一致祈祷週間を行っています。キリストは死に打ち勝ち、わたしたちを聖霊における新しい命へと招いてくださいました。それゆえわたしたちは祈ります。

司式者：わたしたちは僕<sup>しもべ</sup>であるキリストによって変えられました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

司式者：主を忍耐強く待ち望むことを通して、わたしたちは変えられました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

司式者：わたしたちは苦難の僕によって変えられました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

司式者：わたしたちは悪に対する主の勝利によって変えられました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

司式者：わたしたちは復活した主の平和によって変えられました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

司式者：わたしたちは神の揺るぎない愛によって変えられました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

司式者：わたしたちは善い羊飼いによって変えられました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

司式者：わたしたちはキリストの支配によって一致しました。

全 員：わたしたちを派遣してください。わたしたちは共に出発します。

## 祝福と派遣

祝福は複数の司式者によって以下のような形で与えることができる。他の形式も可能である。

司式者：主があなたがたと共におられますように。

全 員：また、あなたの霊と共に。

司式者：主があなたを祝福し、あなたを守られます。

主が御顔をもってあなたを照らし、あなたに恵みを与えられます。

主が御顔をあなたに向けて、あなたに平和を賜ります。

全 員：アーメン。

あるいは

司式者：全能の神、父と子と聖霊の祝福があなたがたの上に豊かにありますように。

全 員：アーメン。

司式者：キリストの平和のうちにいきましょう。

全 員：神に感謝。

## 閉会の讃美歌もしくは後奏

## 八日間の聖書の黙想と祈り

第1日 テーマ：<sup>しもべ</sup>僕であるキリストによって変えられる

テキスト：「人の子は仕えるために来た」（マルコ10：45参照）

ゼカリヤ書 9：9-10 神に従い、勝利を与えられた王は高ぶることがない。

詩編 131 わたしの心は驕っていません。

ローマの信徒への手紙 12：3-8 わたしたちはそれぞれ異なった賜物をもって奉仕する。

マルコによる福音書 10：42-45 人の子は仕えるために来た。

### 解説

メシアとその勝利の訪れは奉仕を通じて実現しました。イエスは弟子たちの心も奉仕の精神で満たされることを望みます。イエスは真の偉大さは神と隣人に仕えることの内にありと教えます。初期キリスト者が言っているとおり、キリストにとって「仕えることは支配すること」です。キリストはこのことを見いだす勇気をわたしたちに与えてくれます。

勝利を与えられた高ぶることのない王に関するゼカリヤの預言は、イエス・キリストの内に実現しました。平和の王であるキリストは、御自分の町エルサレム（平和の町）に來られます。キリストは、策略や暴力によってではなく、柔和と謙遜によってこの町を征服します。

詩編131は、謙遜が生み出す霊的平和の姿を簡潔かつ雄弁に語ります。母と幼子の情景は神の優しい愛と神への信頼を表すしるしです。信じる者の共同体は、この信頼へと招かれています。

使徒パウロは、わたしたちに呼びかけます。自らを慎み深く評価し、自分の力を見いださないと。異なる賜物を持っていても、わたしたちはキリストに結ばれた一つの体です。互いに分かれたわたしたちの諸伝統は、主からおのの賜物を与えられています。わたしたちはそれを他の人々への奉仕のために用いるよう招かれています。

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコ10:45)。キリストは、御自身の奉仕によって神に仕えることを拒むわたしたちを贖あがないました。キリストは人々の関係を修復する模範となりました。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になりなさい」(マルコ10:43)。ここに偉大さと何を優先すべきかの基準があります。

パウロはローマの信徒への手紙の中で、わたしたちに与えられたさまざまな賜物は奉仕のためのものであることを思い起こさせます。預言、奉仕、教え、勧め、施し、指導、慈善の賜物すべてがそうです。わたしたちは、多様であっても常にキリストに結ばれた一つの体であり、各自は互いに部分です。異なる賜物を人類への共通の奉仕のために用いることによって、わたしたちのキリストにおける一致が目に見えるものとなります。人類の善益のためのキリスト者の共同の行動——貧困と無知との戦い、抑圧された人の擁護、平和への関心、命の保護、科学、文化、芸術の発展——は、実践的エキュメニズムの表れです。教会と世界はこうした実践的エキュメニズムを大いに必要しもべとしています。僕であるキリストに倣うことは、福音の雄弁な証しとなります。この証しは理性だけでなく心も動かします。このような共同の奉仕は来るべき神の国のしるしです。神の国は、僕であるキリストの支配だからです。

## 祈り

全能永遠の神よ。御子は奉仕という王道を通して、わたしたちを傲慢な不従順から心の謙遜さへと導いてくださいました。聖霊によってわたしたちを互いに一致させてください。姉妹兄弟への奉仕を通じて、あなたのみことの御顔が示されますように。あなたはとこしえに生きて治められます。アーメン。

## 考察のための問い

1. 高慢な心が最も奉仕の妨げとなるのはどんなときですか。
2. キリスト者のすべての奉仕がいっそう善い奉仕となるには、どうすればよいですか。



3. 自分の共同体として、異なる伝統に属するキリスト者が、僕であるキリストを示すために、ばらばらにではなく共同でできることには、どんなことがありますか。

## 第2日 テーマ：主を忍耐強く待ち望むことを通して変えられる

テキスト：「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」(マタイ3：15)

**サムエル記上** 1：1-20 ハンナは信頼し、忍耐強く待ち望む。

**詩編** 40 忍耐強く主を待ち望む。

**ヘブライ人への手紙** 11：32-34 信仰によって、この人たちは国々を征服し、正義を行いました。

**マタイによる福音書** 3：13-17 今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。

## 解説

勝利はしばしば直接的な戦勝と結びつけられます。だれもが成功したときの気分を知っています。困難な戦いの後に、祝福、承認、ときには賛辞が与えられます。だれでもこのような喜びのときに、キリスト者の考える勝利は長い変容の過程だということを理解するのは困難です。変容をもたらす勝利という考え方は、わたしたちに次のことを教えます。このような勝利を与える時を決めるのは、人間ではなく、神です。だからわたしたちは神に忍耐強く信頼し、希望しなければなりません。

ハンナはこのような信頼と希望を示しました。子供が授かることを何年も待ち望んだ後、ハンナは神に子供を祈り求めました。彼女が泣きながら祈っていると、神殿の門の前の祭司は、彼女が酒に酔っているのだと思って彼女を去らせようと思いました。エリが、神が彼女の祈りをかなくてくださると約束すると、ハンナはただ信頼して、待ち望み、もはや悲しみませんでした。ハンナは身ごもり、男の子を産みました。彼女はこの子をサムエルと名付けました。ここで

語られる勝利は、国家や軍隊の勝利ではなく、個人的な葛藤にかかわる出来事です。しかし、ハンナの信頼と希望は、彼女自身を変えただけでなく、彼女の民をも変えました。イスラエルの神は、ハンナの子サムエルを通してイスラエルに手を差し伸べたからです。

詩編作者は別の戦いのただ中で、ハンナの主に対する忍耐強い待望をこたえます。詩編作者も、ある状況からの解放を求めます。それがどのような状況か、わたしたちには分かりませんが、「滅びの穴、泥沼」という言葉がそれを暗示しています。詩編作者は、神が恥と嘲りの内にある彼を変えてくださったことを感謝し、神の揺るぎない愛に信頼し続けます。

ヘブライ人への手紙の著者は、民の忍耐を思い起こさせます。たとえば、アブラハム(6:15)や、神への信仰と信頼によって勝利を得ることのできた人々です。神が人間の歴史に介入してくださるという考えは、人間の力で勝利しようとする誘惑を退けます。

福音書の中で、イエスが洗礼を受けたとき、天からの声がこう告げます。「これはわたしの愛する子」。この声は、イエスのメシアとしての使命がただちに成功することを保証しているかのように思われます。しかしイエスは、悪い者に逆らい、神の国をただちにもたらそうとする誘惑を退けます。むしろ彼は、十字架上の死へと自分を導くことになる、御自身の生涯と奉仕を通じて、御国に生きることを意味を忍耐強く示します。神の国は復活によって決定的な仕方で始まります。しかし、それはまだ完全に実現していません。最終的な勝利は、主の再臨のときに初めてもたらされます。だからわたしたちは、忍耐強い希望と信頼をもって待ち望みます。「主イエスよ、来てください」と叫びながら。

教会の目に見える一致を望むことも、忍耐強く信頼をもって待つことを必要とします。キリスト者の一致のための祈りは、ハンナと詩編作者の祈りに似ています。キリスト者の一致のための活動は、ヘブライ人への手紙に記された業に似ています。忍耐強く待ち望む態度は、無力さでも受け身な姿勢でもありません。むしろ、教会一致は、わたしたちが実現するものではなく、神が与えてくださる賜物だと深く信頼することです。忍耐強く待ち望み、祈り、信頼することが、わたしたちを造り変えます。そして、わたしたちの計画に従うのでは

なく、神が与えてくださる仕方での教会の目に見える一致に向けてわたしたちを整えます。

## 祈り

誠実な神よ。あなたはいつも御自身の言葉を守られます。わたしたちがイエスと同じように、あなたの揺るぎない愛を忍耐強く信頼することができますように。聖霊によってわたしたちを照らしてください。わたしたちが性急な判断によってあなたの義の実現を妨げることがありませんように。むしろ、すべてのことにおいてあなたの知恵と愛を見いだすことができますように。あなたはとこしえに生きて治められます。アーメン。

## 考察のための問い

1. 生活のどのような状況で神の約束にいつそう信頼しなければなりませんか。
2. 性急に活動する誘惑にさらされている教会生活の分野はどこですか。
3. キリスト者はどのような状況にあるとき待たなければなりませんか。また、どのようなときに共に活動すべきですか。

### 第3日 テーマ：苦難の僕<sup>しもべ</sup>によって変えられる

テキスト：「キリストもわたしたちのために苦しみを受けられたからです」（一ペトロ2：21参照）

**イザヤ書** 53：3－11 絶えず苦しむ、悲しみの人。

**詩編** 22：12－24 主は苦しむ者の苦しみに心を留めてくださる。

**ペトロの手紙一** 2：21－25 キリストはわたしたちのために苦しみを受けられた。

**ルカによる福音書** 24：25－27 メシアはこういう苦しみを受けるはずだったのではないか。

## 解説

神の逆説は、神は悲劇と災いを勝利に変えることができるということです。神はあらゆる苦しみ、不幸、歴史の大きな痛みを復活へと造り変えます。そして復活は全世界に及びます。神は敗北したかのように見えますが、神こそが勝利です。だれも、また何もこの方に打ち勝つことはできません。

苦しむ主しもべの僕についてのイザヤの感動的な預言は、キリストにおいて完全に実現しました。悲しみの人は、大きな苦しみの後に「子孫が末永く続くのを見る」のです。わたしたちは救い主の苦しみから生まれた子孫を目の当たりにしています。こうしてわたしたちは主に結ばれた一つの家族となりました。

詩編22は、イエスについて語るだけでなく、イエスに向けて語られたと言うことができます。救い主御自身が十字架上でこの詩編を唱えました。救い主は「わたしの神よ、わたしの神よ、なぜわたしをお見捨てになるのか」という冒頭の悲痛な言葉を用いました。しかし、詩編の後半では、嘆きと苦しみに満ちた祈願は、神の御業への賛美に変わります。

使徒ペトロは「キリストの受難の証人」（一ペトロ5：1）です。彼はこのことをわたしたちに模範として示します。わたしたちは愛のゆえに苦しむよう招かれています。イエスは神を呪うことなく、正しくお裁きになる方にお任せになりました。わたしたちは彼の傷によっていやされ、皆が一つの牧者のもとに戻ったのです。

主の現存と業に照らされることによって初めて、メシアの苦しみにについての神の目的が明らかになります。エマオに向かう弟子たちと共に歩んでくださったように、イエスは絶えずわたしたちの生涯の道を共に歩んでくださいます。そして、わたしたちの心を燃え立たせ、不思議な救いの計画へと目を開いてくださるのです。

キリスト者は人類の弱い状態の結果として苦しみを経験します。わたしたちは社会的不正や迫害の状況の内に苦しみを見いだします。十字架の力はわたしたちを一致へと引き寄せます。わたしたちは、十字架において、人類家族全体への共感と連帯の源泉としてのキリストの苦しみと出会います。ある現代の神学者は言います。キリストの十字架に近づけば近づくほど、わたしたちも互いに近づきます。さまざまな苦しみの状況におけるキリスト者の共同の証しは、

わたしたちを優れて信頼の置ける者とします。苦しむ人と共同で連帯することにより、わたしたちは、十字架につけられた苦しむ僕<sup>しもべ</sup>から、自分を空しくし、明け渡し、犠牲にすることを学びます。キリストにおける一致への道を歩むわたしたちは、キリストの霊からこうした賜物を受けることを必要としています。

## 祈り

慰めに満ちた神よ。あなたは十字架の恥を勝利のしるしに変えてくださいました。わたしたちを御子の十字架を囲んで一致させてください。苦しみを通して憐れみを与えてくださった御子を礼拝するために。聖霊によってわたしたちの目と心を開いてください。苦しむ人にとって、あなたが近くに来てくださることを感じる助けとなれますように。あなたはとこしえに生きて治められます。アーメン。

## 考察のための問い

1. 長く続く苦しみにこたえるために、信仰はどのような助けとなりますか。
2. 現代、人々が気に留めず、見過ごしている、人間の苦しみは何ですか。
3. キリスト者は十字架の力をどのように共同で証しできるのでしょうか。

### 第4日 テーマ：悪に対する主の勝利によって変えられる

テキスト：「善をもって悪に勝ちなさい」（ローマ12：21）

**出エジプト記** 23：1-9 あなたは多数者に追従して、悪を行ってはならない。

**詩編** 1 いかにかいなことか、主の教えを愛する人。

**ローマの信徒への手紙** 12：17-21 善をもって悪に勝ちなさい。

**マタイによる福音書** 4：1-11 あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。

## 解説

わたしたちはイエスから、人類にとっての「勝利」の真の意味を学びます。

真の「勝利」とは、わたしたちを分裂させるあらゆるものに打ち勝つ神の愛において、互いに幸福となることです。それは、人類と、神のすべての被造物を傷つける破壊的な力に対するキリストの勝利にあずかることです。わたしたちはキリストによって新しい命にあずかることができます。そこからわたしたちは、新たな自信と善に対する喜びをもって、現代世界の不正に立ち向かうよう招かれます。

旧約の言葉は悪行と不正に絶対に加担してはならないと警告します。多数者の態度を決して言い訳としてはなりません。富も生活条件も、人が不正を行う理由とはなりません。

詩編1は、掟を守る義務だけでなく、掟を守ることから生まれる喜びに特に目を向けさせます。主の教えを何よりも愛する人は、幸いで、祝福された人と呼ばれます。神の言葉は逆境における確かな導きであり、人間の知恵を完成します。人は「昼も夜も」神の言葉を思い巡らすことにより、他の人の善のために豊かな実を結ぶ人生を送ることができます。

使徒パウロの勧告は、「善をもって悪に勝ちなさい」と励まします。善のみが、憎しみと復讐心の終わりのない連鎖を断ち切ることができます。善のための戦いにおいて、すべてが人間の思いどおりになるわけではありません。しかし使徒パウロは、人と平和に暮らすためにできる限り努力するよう求めます。パウロは、わたしたちが、自分に危害を与えた人に復讐したい本能と絶えず戦わなければならないことを知っています。しかしパウロは、こうした破壊的な感情に負けてはならないと呼びかけます。善を行うことは、互いの間の悪行と戦うための有効な手段なのです。

福音書の箇所は、神の子の悪魔との戦いを記します。悪魔は悪を擬人化したものです。荒野におけるイエスの誘惑に対する勝利は、御父への従順によって成し遂げられます。この従順はイエスを十字架へと導きました。救い主の復活は、十字架において神の慈しみが最終的に勝利を収めることを確認します。愛は死に打ち勝つのです。復活した主は近くにおられます。主は、わたしたちがこの世で誘惑と罪と戦うとき、いつも共にいてくださいます。共におられる主は、キリスト者が善のために共に活動するよう招きます。

自分たちの分裂のために、現代の悪と戦うための十分な力を持ってないことは、つまずきです。わたしたちは、キリストと一つに結ばれ、その掟を喜びとしながら、キリストの使命にあずかるよう招かれます。それは不正と憎しみと絶望に満ちた地に希望をもたらすという使命です。

## 祈り

主イエス・キリスト。悪と分裂に勝利を収めたあなたに感謝します。奉獻と復活によって死に打ち勝ったあなたを賛美します。どのような敵と戦うときも、わたしたちをいつも助けてください。聖霊により力と知恵をお与えください。わたしたちがあなたに従い、善をもって悪に勝ち、和解をもって分裂に打ち勝つことができますように。アーメン。

## 考察のための問い

1. 自分たちの生活の中のどのような所に悪が見いだされますか。
2. キリストへの信仰は、悪と悪い者に打ち勝つ上でどのような助けとなりますか。
3. 分裂が和解に変わった、自分の共同体の状況から何を学べますか。

### 第5日 テーマ：復活した主の平和によって変えられる

テキスト：「イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた」(ヨハネ 20：19)

**マラキ書** 3：24 彼は父の心を子に、子の心を父に向けさせる。

**詩編** 133 見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。

**エフェソの信徒への手紙** 2：14-20 二つのものを一つにし、敵意を取り壊しました。

**ヨハネによる福音書** 20：19-23 イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

## 解説

旧約の最後の書の最後の言葉は、次の約束を語ります。それは、神が選ばれた者を遣わして、家族の一致と尊敬を回復するという約束です。わたしたちは通常、国家間の戦争や不意の攻撃を恐れます。しかし預言者マラキは、最も難しく、果てしのない争いに目を向けさせます。すなわち、親子の間の反目です。親子の一致の回復は、神の助けなしには不可能です。神の使者は、民の心と関係を変えるという奇跡を成し遂げます。

詩編は、人々の間の一致がどれほど喜びをもたらすかを示します。人間は一人であるために造られたものではありません。また人間は、敵意に満ちた環境の中で落ち着いて暮らすことができません。幸福は、一致と平和と信頼と理解に満ちた人間らしい共同体で暮らすことの内にあります。良好な人間関係は、乾いた地に落ちる露、健康と喜びをもたらす香油のようなものです。詩編は、人々が共に暮らすことの善さは、神から与えられる祝福また無償の恵みだと言います。それは露と同じです。一致のうちに共に暮らすことは、家族だけに限りません。それは、神の平和を受け入れた国民どうしの一致の宣言でもあります。

使徒の手紙は、預言者マラキが告げた方について語ります。イエスは一致をもたらします。なぜなら、彼は御自分の体によって「敵意という隔ての壁」を取り壊したからです。普通、ある人が勝利するということは、敗者の失墜と恥辱を伴います。敗者は退却を選びます。イエスは、拒絶することも、破壊することも、屈辱を与えることもありません。イエスは人が除け者にされた状態を終わらせます。彼はすべての人を造り変え、いやし、一致させます。それは、すべての人が「神の家族の一員」になるためです。

福音書は、復活した主が与える賜物について語ります。この賜物は、自信を失い、恐れに捕らわれた弟子たちに与えられます。「あなたがたに平和があるように」。これはキリストの挨拶であると共に、賜物です。それは、神との平和を求め、人類家族と全被造物の間に新しい永続的な関係を築くようにという招きでもあります。イエスは死と罪を足下に置きました。復活した主は、聖霊の賜物によって、弟子たちを御自分の使命へと招きます。それは、全世界に平和といやしと赦しをもたらすという使命です。キリスト者が分裂している限り、



世は、キリストが一つの新しい人類をもたらしたという福音のメッセージを、心から真実として信じることができません。平和と一致は、キリストのもたらした変容の特徴です。教会はこの賜物を自分のものとし、証ししなければなりません。教会は、隅の親石であるイエスという確かな基盤の上に築かれた、一つの神の家族に属しているからです。

## 祈り

愛と憐れみに満ちた神よ。あなたの平和にあずかる喜びを教えてください。わたしたちをあなたの聖霊で満たしてください。わたしたちを隔てる敵意の壁を滅ぼすことができますように。わたしたちの平和である、復活したキリストよ。あらゆる分裂に打ち勝つことができるようにわたしたちを助け、わたしたちをキリストの家族として一致させてください。イエス・キリストの御名によって願います。すべての誉れと栄光は、父と子と聖霊にありますように。世々に至るまで。アーメン。

## 考察のための問い

1. わたしたちはキリスト者として、共同体の中にあるどのような暴力に共に立ち向かうことができるでしょうか。
2. わたしたちキリスト教共同体どうしの関係に影響を及ぼす、隠れた敵意を経験したことがありますか。
3. キリストがわたしたちを受け入れてくださったのと同じように、互いに受け入れ合うにはどうすればよいでしょうか。

### 第6日 テーマ：神の揺るぎない愛によって変えられる

テキスト：「世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です」

(一ヨハネ5：4参照)

**ハバクク書** 3：17－19 わたしの主なる神は、わが力。

**詩編** 136：1－4、23－26 主の揺るぎない慈しみはとこしえに。

**ヨハネの手紙一** 5：1-6 世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。  
**ヨハネによる福音書** 15：9-17 友のために自分の命を捨てること、これ  
以上に大きな愛はない。

## 解説

旧約聖書の中で、神への信仰は、どんな失敗においても希望を生き生きと保ちます。ハバククの嘆きは、神の忠実に対する喜びに変わります。こうして絶望の最中で力が与えられます。

詩編136は言います。イスラエルの歴史の中で神が行われた驚くべき業は、神の揺るぎない愛の証明です。神が手を差し伸べてくださったので、イスラエルの民は特別な驚くべき勝利を取めました。神の偉大な救いの業を思い起こすことから、喜びと感謝と希望が生まれます。信じる者はこのことを幾世紀にもわたって、祈りと讃美歌と音楽によって表現してきました。

使徒の手紙はわたしたちに次のことを思い起こさせてくれます。「神から生まれた人」は皆、世に打ち勝ちます。この勝利は、必ずしも人間的な尺度によって計られる勝利ではありません。キリストにおける勝利は、心の変化を伴います。それは、この世の事柄を永遠の視点から見ることです。死に対する最終的な勝利を信じることです。勝利をもたらす力は信仰です。信仰の与え主また源泉は、神です。信仰を完全な仕方ですべて表すものは、愛です。

福音書の言葉の中で、キリストは弟子たちに神の愛を約束します。神の愛を最終的な仕方ですべて確認するのは、十字架上での救い主の死です。同時にキリストは弟子たちに、互いに愛し合うよう招き、呼びかけます。イエスと弟子たちの関係は、愛に基づきます。イエスは弟子たちを単なる弟子として扱いません。むしろイエスは彼らを自分の友と呼びます。弟子たちがキリストに仕えるとは、唯一の愛の掟に従って生活することです。このような生活は、内的な確信と信仰から生まれます。たとえ完全な目に見える一致への歩みが遅いように思われても、わたしたちは愛の精神をもって、希望を失いません。神の揺るぎない愛によって、わたしたちは最大の障害にも深い分裂にも打ち勝つことができます。だから「世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。わたしたちを造り

変える神の愛の力です」。

## 祈り

生ける神の子である、主イエス・キリスト。あなたは復活によって死に打ち勝ち、命の主とられました。あなたはわたしたちを愛して、わたしたちをあなたの友として選んでくださいました。聖霊によって、わたしたちをあなたと一つにしてください。友愛のきずなの内にわたしたちを互いに一つにしてください。わたしたちがあなたの揺るぎない愛の証人として、この世であなたに忠実に仕えることができますように。あなたは唯一の神、父と聖霊と共にとこしえに生きて治められます。アーメン。

## 考察のための問い

1. 諸宗教・哲学とのかかわりの中で、どのようにキリストの愛を表すべきでしょうか。
2. 分裂した世界の中で、神の揺るぎない愛の信頼の置ける証人となるには、どうすればよいでしょうか。
3. どうすればキリストの弟子として、世にあっていっそう目に見える形で互いの支えとなることができるでしょうか。

### 第7日 テーマ：善い羊飼いによって変えられる

テキスト：「わたしの羊を飼いなさい」（ヨハネ21：17）

**サムエル記上** 2：1－10 人は力によって勝つのではない。

**詩編** 23 あなたの鞭、あなたの杖、それがわたしを力づける。

**エフェソの信徒への手紙** 6：10－20 主に依り頼み、強くなりなさい。

**ヨハネによる福音書** 21：15－19 わたしの羊を飼いなさい。

## 解説

苦しみに打ち勝つ人には、天の助けが必要です。助けは祈りによってもたら

されます。サムエル記は冒頭でハンナの祈りの力について書いています。ハンナは、ある種の事柄が神の助けによって初めて行われると知っていました。神の御心により、ハンナとその夫は子を授かりました。この箇所模範は、どうしようもないかのように思われる状況に置かれた人の信仰を強めてくれます。それは勝利の模範です。

詩編23の善い羊飼いは、暗闇の中でも羊を導きます。彼は共にいることによって羊を慰めます。主に信頼を置く人は、分裂の暗闇の中にも恐れることがありません。羊飼いがその人を真理の青草の原へと導き、主の家に共に住まわせてくださるからです。

エフェソの信徒への手紙の中で、使徒パウロは「主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい」とわたしたちに勧めます。そのためにわたしたちは霊的な武具を身に着けなければなりません。すなわち、真理、正義、福音を告げること、信仰、救い、神の言葉、祈り、願い求めることです。

復活した主はペトロと、ペトロを通して一人一人の弟子に勧めます。主の愛を自らの内に見いだしなさい。主のみが、唯一のまことの羊飼いです。主の愛を見いだしたなら、「わたしの羊を飼いなさい」。つまり、羊に糧を与えなさい。彼らを守り、育て、力づけなさい。彼らはわたしの羊であり、わたしに属しているからです。わたしの善い僕しもべとなりなさい。そして、わたしを愛し、わたしの声に従う者たちの世話をしなさい。彼らに、人生の順境のときも逆境のときも、互いに愛し合い、協力し合い、勇気を持つことを教えなさい。

キリストを証しするわたしたちは、神の恵みによって、一致のために共に働かなければなりません。わたしたちにはこの証しを行うための力も知識も備わっています。けれども、わたしたちには証しを行う意欲があるでしょうか。善い羊飼いである方は、御自身の生涯と教えと業をもって、その恵みと助けに信頼するすべての人を力づけられます。この方は、御自分に無条件に協力するようにとわたしたちを招きます。このようにして力づけられたわたしたちは、互いに助け合いながら一致への道を歩むことができます。ですから、主に依り頼み、強くなろうではありませんか。共同の愛の証しによって、他の人々を力づけることができるために。

## 祈り

すべての人の父である神よ。あなたは、御子イエス・キリストに結ばれた一つの群れとなるようにと、わたしたちを招いてくださいます。キリストはわたしたちの善い羊飼いです。善い羊飼いは、わたしたちを青草の原で休ませ、水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださいます。わたしたちが主に従って、人々の世話をすることができますように。こうして人々がわたしたちの内に、唯一のまことの羊飼いである、わたしたちの主イエス・キリストの愛を見いだすことができますように。あなたは唯一の神、父と聖霊と共にとこしえに生きて治められます。アーメン。

## 考察のための問い

1. 善い羊飼いである方は、見失った羊をどのように慰め、力づけ、その自信を回復させるように勧めておられるでしょうか。
2. 異なる伝統に属するキリスト者は、どうすれば互いに力づけ合いながら、イエス・キリストを宣べ伝え、証しすることができるでしょうか。
3. 「主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。…神の武具を身に着けなさい」という聖パウロの勧告は、現代のわたしたちにとってどのような意味を持ちうるでしょうか。

### 第8日 テーマ：キリストの支配によって一致する

テキスト：「勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう」

(黙示録3：21)

**歴代誌上** 29：10－13 その御手をもっていかなるものでも大いなる者、力ある者となさることができる。

**詩編** 21：1－7 黄金の冠をその頭におかれた。

**ヨハネの黙示録** 3：19b－22 勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。

ヨハネによる福音書 12：23-26 わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてください。

## 解説

イエス・キリストは死者の中から最初に生まれた方です。この方はへりくだって、高く上げられました。キリストは御自分の勝利を望まず、むしろその王座と栄光をすべての人に分け与えられます。

神殿建設を前にした王と民の喜びから生まれたダビデの賛歌は、すべては恵みによって生じると述べます。地上の王権も神の支配のたとえとなりえます。神は「その御手をもっていかなるものでも大いなる者、力ある者となさることができ」方だからです。

ダビデ王の感謝の詩編も、このような思想を続いて述べます。キリスト教の伝統はこの詩編にメシアの意味も与えました。キリストは祝福と命に満ちたまことの王です。完全な仕方です。民と共におられる神です。ある意味でこのたとえは人間にも当てはまります。人間は被造物の頂点ではないでしょうか。神はわたしたちが「御子の共同の相続人」、「王家の一員」となることを望まれたのではないのでしょうか。

7つの地方の教会にあてて書かれた黙示録の手紙は、あらゆる時代と地域の教会に対するメッセージです。キリストを家に迎え入れた人は皆、キリストと共に永遠の命の宴にあずかるよう招かれています。かつて十二人に告げられた、王座に座らせるという約束は、今や勝利を得るすべての人にまで拡大されます。

「わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる」。イエスの言われる「わたしはある」を、唱えることの許されない神の名と関連づけることができます。イエスに仕える人を、父は大切にしてください。イエスに仕える人は、主のおられるところにいます。そして、主は御父の右の座に座って、治めておられるのです。

キリスト者は、たとえ人間の努力も必要であるにせよ、キリスト者の一致は何よりも神が与えてくださる賜物であることを自覚しています。キリスト者の一致は、分裂をもたらす罪と死と悪に対するキリストの勝利にあずかることで

す。わたしたちは天において完全な仕方です。キリストの勝利にあずかります。わたしたちが行う共同の福音の証しは、神がわたしたちを限定することも圧倒することもないことを世に示さなければなりません。わたしたちは現代人に信頼の置ける仕方です。次のことを告げ知らせなければなりません。キリストの勝利は、キリストと共に、またわたしたちが互いに、完全な命にあずかることを妨げるすべてのことに打ち勝ちます。

## 祈り

すべてのものを治められる全能の神よ。あなたの栄光の神秘を仰ぎ見させてください。謙遜にあなたの賜物を受け入れ、人間の尊厳を尊重する恵みをお与えください。聖霊が、これから霊的な戦いを行うわたしたちを力づけてくださいますように。キリストと一つに結ばれたわたしたちが、栄光の内にキリストと共に治めることができますように。キリストを通してこの願いをおさげします。キリストはへりくだって高く上げられ、あなたと聖霊と共にとこしえに生きておられます。アーメン。

## 考察のための問い

1. 偽りの謙遜と地上の栄光への望みが、どのような仕方です。生活の中で現れるでしょうか。
2. キリストの支配に対する信仰をどのように共に表明すればよいでしょうか。
3. 来るべき神の国への希望をどのように生きればよいでしょうか。

## ポーランドの教会の祈り

以下に掲げる第1日から第8日のための祈りは、それぞれの日のテーマに基づく。これらの祈りを、それぞれの日の聖書朗読箇所と祈りと共に、キリスト教一致祈禱週間のそれぞれの日の簡潔な礼拝のために用いることもできる。

### 第1日 勝利の僕<sup>しもべ</sup>

司式者：主よ。アダムとエバの不従順は苦しみと死をわたしたちにもたらしめました。人間の家族は傷つき、引き裂かれました。わたしたちを憐れんでください。

全 員：わたしたちを憐れんでください。

司式者：キリストよ。御言葉の奉仕者を通じてあなたが教えてくださったとき、わたしたちは心を頑なにしました。わたしたちを憐れんでください。

全 員：わたしたちを憐れんでください。

司式者：主よ。あなたはわたしたちが兄弟姉妹の内におられるあなたに仕えなかったことを知っておられます。わたしたちを憐れんでください。

全 員：わたしたちを憐れんでください。

司式者：全能の神がわたしたちを憐れみ、罪を赦し、永遠の命に導いてくださいますように。

全 員：：アーメン。

### 第2日 主を忍耐強く待ち望むことを通して変えられる

司式者：主よ。あなたに祈ります。あなたの知恵に照らされて、生活を顧みる恵みをお与えください。

全 員：主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。



司式者：人道的正義が全うされない状況の中で忍耐する恵みをお与えください。

全 員：主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

司式者：あなたの与えてくださる賜物だけがわたしたちの望みを満たしてくれるような状況の中で、祈り、待ち望む力をお与えください。

全 員：主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

司式者：神よ、わたしたちの声を聞いてください。あなたの満ち溢れる義を見いだす恵みをお与えください。わたしたちの主イエス・キリストによって。

全 員：アーメン。

### 第3日

## 苦難しもべの僕によって変えられる

司式者：十字架は勝利のしるしです。それゆえ、わたしたちはあなたの御名を呼びます。主よ、あなたを賛美します。

全 員：主よ、あなたを賛美します。

司式者：あなたの十字架は、真理の住まい、憐れみの座。

全 員：主よ、あなたを賛美します。

司式者：あなたの十字架は、命の木、恵みの座。

全 員：主よ、あなたを賛美します。

司式者：あなたの十字架は、憐れみと希望のしるし。

全 員：主よ、あなたを賛美します。

司式者：主よ。あなたは散らされた神の子らをつに集めるために、十字架上で亡くなりました。あなたの十字架を仰ぎ見ることによって、わたしたちの苦しみについての考え方を教えてください。あなたはとこしえに生きて治められます。

全 員：アーメン。

## 第4日

### 悪に対する主の勝利によって変えられる

司式者：神の国の到来は、サタンの国の敗北です。イエスは、荒れ野で誘惑者を打ち負かし、人々を悪霊の力から解放することにより、御受難の偉大な勝利を先取りしました。この世の支配者は追放されました。わたしたちは「主の祈り」の最後に「わたしたちを悪い者から救ってください」と願います。この祈りによって、わたしたちはキリストが既に勝ち得てくださった勝利を現してくださるよう、神に祈ります。このように願う心をもって祈ります。主よ、わたしたちをお救いください。

全 員：主よ、わたしたちをお救いください。

司式者：すべての悪より

全 員：主よ、わたしたちをお救いください。

司式者：すべての罪より

全 員：主よ、わたしたちをお救いください。

司式者：サタンの罠より

全 員：主よ、わたしたちをお救いください。

司式者：あらゆる憎しみと悪意より

全 員：主よ、わたしたちをお救いください。

司式者：永遠の死より

全 員：主よ、わたしたちをお救いください。

司式者：主よ、わたしたちをすべての悪よりお救いください。あなたの憐れみによってわたしたちをお支えください。あなたはとこしえに生きて治められます。

全 員：アーメン。

## 第5日

### 復活した主の平和によって変えられる

司式者：地上のキリスト者とすべての人々のために、復活した主に祈りましょ  
う。あなたの平和をお与えください。

全 員：あなたの平和をお与えください。

司式者：諸国の民に平和の祝福をお与えください。

全 員：あなたの平和をお与えください。

司式者：あなたの教会の目に見える一致のために働く人々をお支えください。

全 員：あなたの平和をお与えください。

司式者：あなたの民を養うよう招かれた人々に目を留めてください。

全 員：あなたの平和をお与えください。

司式者：夫婦の愛を強めてください。

全 員：あなたの平和をお与えください。

司式者：家庭、隣人、社会に和解をもたらしてください。

全 員：あなたの平和をお与えください。

司式者：主よ。わたしたちの真ん中に立って、一致と平和をお与えください。  
あなたはとこしえに生きて治められます。

全 員：アーメン。

## 第6日

### 神の揺るぎない愛によって変えられる

司式者：ただ一人、信じるにふさわしい方に向かって祈りましょう。アーメン。  
わたしは信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：唯一の神、父と子と聖霊を信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：人となられた神の子を信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：御子の死と復活と昇天を信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：聖霊の賜物を信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：キリストが栄光の内に再び来られることを信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：主の恵みが罪より強いことを信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：愛は憎しみと死より強いことを信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：体の復活と、御国における終わりのない命を信じます。

全 員：アーメン。わたしは信じます。

司式者：主よ。世界中のあなたの旅する教会の信仰を顧みてください。あなたの子らを導いてください。あなたの栄光の輝きを顔と顔とを合わせて見ることができますように。あなたはとこしえに生きて治められます。

全 員：アーメン。

## 第7日

### 善い羊飼いによって変えられる

司式者：主はわたしたちをお見捨てになりません。人生のどのような時にも、主はその鞭と杖でわたしたちを導いてくださいます。主はわたしたちの善い羊飼いです。それゆえ、わたしたちは祈ります。主よ、あなたに感謝します。

全 員：主よ、あなたに感謝します。

司式者：あなたは命とあらゆる賜物をもってわたしたちを力づけてくださいました。

全 員：主よ、あなたに感謝します。

司式者：あなたは御言葉を与えてくださいました。

全 員：主よ、あなたに感謝します。

司式者：忍耐強い信仰を与えてくださいました。

全 員：主よ、あなたに感謝します。

司式者：あなたの福音を信頼の置ける仕方で証しする恵みを与えてくださいました。

全 員：主よ、あなたに感謝します。

司式者：数えきれないあらゆる恵みと、気づいていない恵みを与えてくださったことを感謝します。

全 員：主よ、あなたに感謝します。

司式者：主よ、あなたが与えてくださったあらゆる恵みのゆえに、あなたに感謝します。わたしたちが立ち止まることも、霊的な戦いの中で力を失うこともありませんように。あなたはとこしえに生きて治められます。

全 員：アーメン。

## 第8日

### キリストの支配によって一致する

司式者：天の王座は既に整えられました。<sup>しもべ</sup>僕たちは待機しています。婚宴の間は用意ができています。食事の用意も整っています。永遠の命の場は飾られています。永遠の宝は開かれています。世の造られた時から準備されていた天の国は既に開かれました。(古代の説教より)

司式者：キリストと共に住むことを願い求めながら、祈りましょう。主はとこしえにたたえられますように。

全 員：主はとこしえにたたえられますように。

司式者：時間と永遠の主。

全 員：主はとこしえにたたえられますように。

司式者：死者の中から最初に生まれた方。

全 員：主はとこしえにたたえられますように。

司式者：死と陰府<sup>よみ</sup>の鍵を持っておられる方。

全 員：主はとこしえにたたえられますように。

司式者：王たちの王。

全 員：主はとこしえにたたえられますように。

司式者：かつておられ、今おられ、やがて来られる方。

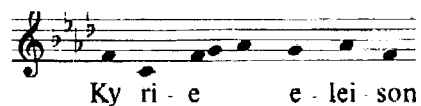
全 員：主はとこしえにたたえられますように。アーメン。

## キリエ

### Kyrie

Melody: Warsaw (1874)

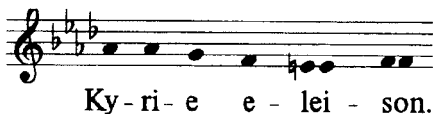
*Śpiewnik Ewangelicki (Evangelical songbook), Bielsko-Biała 2002*



主よ、憐れみたまえ。



キリスト、憐れみたまえ。



主よ、憐れみたまえ。

# 主の祈り

## Our Father

English adaptation: S. Takis

N. Kedrov: Russia

Lento

*pp* Our Fa - ther, who art in hea - ven, hal - low - ed be Thy name. Thy king - dom  
*sempre legato*  
come, Thy will be done on earth as it is in hea - ven. Give us this day our  
dai - ly bread, and for-give us our tres - pass - es, as we for-give those who tres - pass a-  
gainst  
us. And lead us *mf* not in - to temp - ta - tion, but de - liv - er us from *p* vil. *pp*

English adaptation © 2001 S.J. Takis

## Ciągły niepokój na świecie

Text and melody: Zofia Jasnota (1971)

Śpiewnik Ewangelicki (Evangelical Songbook), Bielsko-Biała 2002

Ciąg - ly nie - po - kój na świe - cie,  
woj - ny i woj - ny bez koń - ca.  
Jak - że nie - pew - na jest zie - mia,  
ję - kiem i gnie - wem drga - ją - ca!  
Ref. Po - kój zo - sta - wiam wam, po - kój swój  
da - ję wam, nie tak jak da - je  
dzi - siał świat - po - wie - dział do nas Pan.

地上を支配するのは平和ではなく  
戦争と争い、  
抑圧と鎖。  
鎖につながれた多くの人は沈黙する。  
あなたがたに平和があるように。  
わたしは、平和をあなたがたに残し、  
わたしの平和を与える。  
わたしはこれを、今の世が与えるように  
与えるのではない。  
主はこう仰せになった。

## Hymn of International Ecumenical Fellowship

Music composed by the famous Polish composer Wojciech Kilar  
(beginning of 1990s). Author of words unknown.

Song



Kró - luj nam Chry - ste po wie - czny czas. Za - wsze i wszę - dzie Ty pro - wadz nas.

Bądź na - szą Dro - gą u - czyni ten cud. a - by - śmy by - li je - dno Bo - zy lud.

Bądź na - szą Pra - wdą, spełń Oj - ca plan, a - by - śmy by - li je - dno. A - men.

Bądź na - szą Pra - wdą, 'spełń Oj - ca plan, a - by - śmy by - li je - dno. A - men.

A - men.

主よ、今、来て、わたしたちの心を支配してください。今もとこしえにわたしたちを導いてください。わたしたちを一つにしてください。わたしたちを神の民として集めてください。主よ、わたしたちの真理、道となってください。父の計画を実現し、わたしたちを一つにしてください。来て、わたしたちの命となってください。あなたの平和を与えてください。わたしたちの主イエス・キリストに結ばれて、わたしたちが一つになれるように。アーメン。アーメン。



# ポーランドにおけるエキュメニズムの状況

## 基礎データ

ポーランド（正式国名はポーランド共和国）は、中欧に位置し、バルト海に面する国です。西はドイツと、南はチェコ共和国、スロバキア共和国と、東はウクライナ、ベラルーシと、北東はリトアニアと、北はロシア（カリーニングラード州）と国境で接しています。バルト海でも、デンマークとスウェーデンと海上国境を有しています。

312,700平方キロの国土を持つポーランドは、ヨーロッパで9番目に大きな国です。人口は3,800万人を超えます。首都はワルシャワです。

人口の約97パーセントはポーランド人が占めます。1939年まで人口の3分の1は少数民族でした。第二次世界大戦中に約600万人が消失しました（そのうち350万人はホロコーストで死亡したユダヤ人です）。現在は少数民族はポーランド人口のわずかししか占めていません。その中で人口の多いのは、ウクライナ人、ベラルーシ人、ドイツ人（議会で代議士となっています）、ロマ人、リトアニア人、スロバキア人、チェコ人です。

ポーランド人はポーランド語を話します。ポーランド語はスラヴ語派に属します。少数民族が自らの言語を用いることは法律で保障されています。

19世紀に始まる経済的・政治的理由による移民の結果、約1,500万人のポーランド人が国境外に移り住みました。現在、国外居住者で最も多いのは、アメリカ合衆国、ドイツ、ブラジル、フランス、カナダに住むポーランド人です。

## 歴史的概観

ポーランドのキリスト教は千年以上の歴史を持ちます。最初のキリスト教共同体はキュリロスとメトディオスの宣教活動によって生まれました。ポーランドの教会生活は、最初の王である、ピアスト家のミエシュコ統治の時代に組織化されました。ミエシュコはヴィスワ川流域に住んでいたスラヴ族を統一しました。ミエシュコが洗礼を受けた966年は、ポーランドが国家として成立した年とされます。

独立した統治権を持つポーランド最初の大司教座は1000年、グニエズノに設立されました。この年、3人の君主（ドイツ人、チェコ人、ポーランド人）が司教・殉教者の聖ヴォイチェフの墓所で会議を開きました（1997年に設立された現代のグニエズノ会議は、国際的・エキュメニカルな性格を持つこの会議になぞらえています）。ボレスワフ勇敢王は、1025年に戴冠された最初のポーランド王です。ボレスワフは国土を著しく拡大し、宣教活動を支援しました。外国人は最初からポーランドを住み心地の善い場所と考えて移住しました。最初に来たのはカライ派のユダヤ人（12世紀以降）とタタール人のムスリム（14世紀以降）です。

15・16世紀はポーランド史の黄金時代として知られます。この時代、ポーランドの政治的・経済的・文化的な輝きは頂点に達しました。それは宗教改革思想がポーランドに到来した時代でもあります。マルティン・ルターの教えは市民に好意的に迎えられましたが、ジャン・カルヴァンとフルドリッヒ・ツヴィングリは貴族（旧騎士階級）の心を捕らえました。西欧諸国が互いに破壊的な宗教戦争を始めたのに対して、ポーランドはきわめて宗教的に寛容であり、プロテスタントの反体制主義者の避難所となりました。

17世紀は対抗宗教改革の時代でした。プロテスタントの人々は政治的権利を奪われ、ポーランド兄弟団は国外移住を強いられました。そのためポーランドのプロテスタンティズムの発展は停滞しました。1791年、ポーランド議会は世界で二番目の（最初のもはアメリカ合衆国）信仰告白と宗教的実践の自由を保障する憲法を制定しました。

残念ながら、1772年から1795年の間、ポーランドは3度、プロイセン、ロシア、オーストリアの大国によって分割されました。その結果、123年間にわたりポーランドはヨーロッパの地図上に存在しませんでした。ポーランド人は一連の反乱によって独立を回復しようと努めました。すなわち、コシチューシュコ蜂起（1791年）、十一月蜂起（1830年）、諸国民の春（1848年）、一月蜂起（1863年）、そして第一次世界大戦中の革命です。ポーランドは1918年まで自由と独立を回復できませんでした。

戦間期（1918－1939年）は、分割統治による荒廃と戦争中の破壊の後、国家

を再建した時代です。短い独立時代（20年間）は急速な成長の時代でもありました。ポーランドは1920 - 1930年の世界恐慌をうまく乗り切り、産業は栄え、義務教育が導入され、科学・文化の発展のための条件が整えられました。

ポーランド史の最も悲惨な時代は第二次世界大戦（1939 - 1945年）です。ナチス・ドイツは1939年9月1日にポーランドに侵攻し、ポーランド人は6週間、侵略者の圧倒的な兵力と戦いました。1939年9月17日、ソビエト赤軍がポーランド東部を併合することにより、事態はいっそう困難なものとなりました。

ポーランド国内軍と地下国家が、ポーランド総督府として知られるドイツ軍占領地域に組織されました。1943年4月、ワルシャワのゲットー（ユダヤ人居住地区）で蜂起が起きました。全ユダヤ人居住地区が徹底的に焼かれ、跡形もなくなりました。1944年8月、首都でワルシャワ蜂起が起き、約20万人の反乱軍兵士と市民が殺害されました。蜂起が鎮圧されると、残った市民は移動させられ、首都の95パーセントがナチスによって破壊されました。

ポーランド兵士は、ノルウェー、イギリス、イタリア、オランダ、ソビエト連邦、中東、アフリカなど、世界中の前線で戦いました。

戦後、1945年、アメリカ合衆国、イギリス、ソビエト連邦がヤルタとポツダムで結んだ条約により、ポーランドはソビエトの影響圏に組み込まれ、共産主義の共和国となりました。以前の国境は変更されました。ソビエト連邦はポーランドの東部地域を併合し、西部国境はオーデル川とナイセ川に沿って引かれました。この二つの決定はその後大きな政治・経済・社会・宗教的影響を及ぼすことになりました。さまざまな国籍を持つ何百万人もの人々が移転ないし強制移転させられたのです。

1970年代末、ポーランドは経済破綻に見舞われました。ポーランド全土でストライキが起き、この時期に増大した不満は、強力な社会・政治運動を生み出しました。1980年、約1,000万人の会員から成る独立自主管理労働組合「連帯」が結成されました。指導者はレフ・ワレサです。ソビエト連邦の政治変革（ペレストロイカ）とポーランドにおける強力な独立自主管理労働組合運動は、ヨーロッパの民主化に貢献し、ポーランドの主権を回復させました。

1989年、政治体制が議会制民主主義に変わり、市場経済への移行が行われました。最初の議会選挙が実施され、新しい政党と非政府組織が誕生しました。1999年、ポーランドは国際的な安全保障機構(NATO)と経済・貿易機構(WTO、OECD)に加盟しました。2004年以来、ポーランドは欧州連合(EU)に加盟し、2011年7月から12月まで議長国を務めています。

## 宗教情勢

ポーランド最大の教会はローマ・カトリック教会であり、人口の約95パーセントが所属しています。ローマ・カトリック教会はポーランド国民のアイデンティティと独立を保つ上で長年にわたり大きな役割を果たしてきました。特に分割時代(1772 - 1918年)と共産主義時代(1945 - 1989年)においてです。1978年のポーランド人教皇の選出は、ポーランドの社会的・政治的变化にとってきわめて大きな意味を持ちました。ヨハネ・パウロ二世(2005年没)は、諸宗教の尊重、諸国家間の平和、人間の尊厳と自由の擁護者として世界中に知られました。

二番目に大きい教会はポーランド正教会です(信者数約55万人)。ポーランド正教会の起源は聖キュリロスとメトディオスの宣教活動(9世紀)と密接に結びついています。正教会はポーランドの宗教体制における不変の存在です。1925年以来、ポーランド正教会は自治教会としての地位を有しています。

1596年、ブレスト合同の結果、多くの正教会の司祭・信者が、ビザンツ典礼を保持しながら、教皇を教会の頭と認め、カトリック教義を受け入れました。ギリシア・カトリック教会(ユニアト教会)が誕生したのです。現在、その信者数は約10万人です。

福音ルーテル教会(信者数約75,000人)と福音改革派(カルヴァン派)教会(信者数約3,500人)は16世紀の宗教改革によって生まれました。福音メソジスト教会(信者数約5,000人)とバプテスト同盟(信者数約5,000人)は19世紀からポーランドに存在します。

19世紀と20世紀の変わり目に生まれ、古カトリック教会に属する2つの教会もあります。マリアビテ教会とポーランド・カトリック教会です。古カトリッ

ク・マリアビテ教会（信者数約25,000人）は1906年にローマ・カトリック教会から分離しました。ポーランド・カトリック教会はアメリカ在住ポーランド人の中で生まれました。信者数は約22,000人で、ユトレヒト・ユニオンに所属します。

ほかにもポーランドで活動するプロテスタント教会があります。ペンテコステ教会、セブンスデー・アドベンチスト教会、フェローシップ・オブ・クリスチャン・チャーチズ、チャーチ・オブ・エバンジェリカル・クリスチャンズです。これらの教会のあるものは福音同盟に属しています。ポーランドにはユダヤ教共同体連盟やカライ派連盟、イスラーム教連盟の支部も置かれています。

## エキュメニズムの状況

長年にわたり、ポーランドには多様な教派が存在してきました。自由の伝統、宗教的寛容、エキュメニカルな協力を大切にしてきたからです。現代の宗教情勢は多くの歴史的な出来事——特に第二次世界大戦とそれに伴う国境線の変更、そして大規模な人口移動——の結果です。

ポーランドにおけるエキュメニズムの歴史的伝統は16世紀に遡ります。1570年、ルーテル派、カルヴァン派、チェコ・フス派が有名なサンドミエツ和約に署名しました。1777年、ルーテル派とカルヴァン派は同盟を作りました。1828 - 1849年、双方の教派は合同評議会を設けていました。

ポーランドにおける最初の超教派組織は、1923年に諸教会で設立した、世界諸国家間友愛伝道同盟（World Union for the Propagation of Friendship between Nations）のポーランド支部でした。初めは、ルーテル教会、改革派教会、合同教会に属する6つの教会がポーランド支部に所属し、互いの間の議論の解決や共同の行動を行いました。ポーランド自治正教会が1930年に同盟に加盟すると、二つの分裂した伝統（福音教会と正教会）の合同機関での歴史的な会合が実現しました。

第二次世界大戦の間、1942年末まで、暫定的なエキュメニカル協議会が設立されました。同協議会はエキュメニカルな「ポーランド・キリスト者の信仰告白（ポーランド信条）」を作成しました。これは、共通の善と考えられる教義的

原則を定式化したものです。

1945年、5つのプロテスタント教会（福音ルーテル教会、福音改革派教会、福音メソジスト教会、バプテスト同盟、福音派教会）の代表が正式な合同宣教団を結成しました。ポーランド共和国プロテスタント教会協議会です。議長はメソジスト教会の総合監督のコンスタンティ・ナイデルでした。

ポーランド・エキュメニカル協議会（PEC）は1946年11月15日、ワルシャワで正式に設立されました。12教派の代表が参加しました。福音ルーテル教会のジグムント・ミヒェリス（1890－1977年）が議長に選ばれました。

1960年代末まで、ポーランド・エキュメニカル協議会とローマ・カトリック教会の関係は非公式なものでした。しかし、聖職者と信徒を含めた多くのカトリックの人々がポーランド・エキュメニカル協議会主催のキリスト教一致祈祷週間に参加していました。

第二バチカン公会議前に、他教派の代表を招待して行われた、カトリック教会での最初のエキュメニカル礼拝は、1962年1月10日、ワルシャワの聖マリア聖堂で開催されました。今年（2012年）はその50周年に当たります。

ポーランド・エキュメニカル協議会と司教協議会エキュメニズム委員会の合同委員会は1974年に開始しました。これによってローマ・カトリック教会とポーランド・エキュメニカル協議会との正式な接触が可能になりました。1977年、合同委員会は、神学的問題をめぐる対話を行うための支部協議会を設置しました。

20年後（1997年）、それまでの協力に基づいて、ポーランド司教協議会－ポーランド・エキュメニカル協議会対話委員会が設立されました。ポーランド・エキュメニカル協議会とローマ・カトリック教会の協力は2000年に一つの実を結びました。ポーランド・エキュメニカル協議会会員の6教会とローマ・カトリック教会の代表者が『洗礼の秘跡と一致のしるし』という文書に調印したのです。この文書において、調印者は洗礼の有効性の相互承認を行いました。

2000年以來、対話委員会は混宗結婚の問題を検討しています。2009年、混宗結婚に関するエキュメニカル文書案が提出されました。

ポーランド聖書協会が企画した重要な行事は、2001年の新約聖書と詩編の共

同訳の発行です。11教会が翻訳作業に参加しました。旧約聖書の共同訳事業も現在進められています。

今年（2012年）、ポーランド・エキュメニカル協議会とローマ・カトリック教会が共同作成した15回目の「キリスト教一致祈祷週間」冊子が発行されます。

2009年、『キリストへの道。ポーランドの諸キリスト教会が自らを語る』という本が刊行されました。同書の中では、ポーランド・エキュメニカル協議会所属教会とローマ・カトリック教会が自己紹介を行っています。このようなことが単一の本の中で行われるのは、戦後ポーランドで初めてです。

もう一つ特筆すべきことは、教皇ヨハネ・パウロ二世とベネディクト十六世が、ポーランド訪問の際のエキュメニカル礼拝で、ポーランド・エキュメニカル協議会所属教会の教職者・信徒と会見したことです。

現在、7教会がポーランド・エキュメニカル協議会に所属しています。ポーランド自治正教会、ポーランド・カトリック教会、古カトリック・マリアビテ教会、福音ルーテル教会、福音改革派教会、福音メソジスト教会、ポーランド・バプテスト同盟です。ポーランド聖書協会とポーランド・カトリック社会協会は準会員です。

## ◇キリスト教一致祈禱週間に関する歴史上の重要な年◇

1740年頃 スコットランド	スコットランドで起こり、北アメリカ大陸まで及んでいた聖霊による働きに目覚めた人々がいた。それは諸教会を含む信仰覚醒運動の祈りであった。(メソジスト運動)
1820年 ジェームス・H・スチュアート	ジェームス・H・スチュアート神父の著作が出版された。 “Hints for the General Union of Christians for the Outpouring of the Spirit”
1840年 イグナティウス・スペンサー	ローマ・カトリックへ改宗した、イグナティウス・スペンサー神父は、「一致のための合同の祈り (Union of Prayer for Unity)」を提唱した。
1867年 ランベス会議	聖公会の主教たちによる第1回ランベス会議が行われ、一致祈禱についての転換の前兆となった。(1920年のランベス会議決議では、「教会の再一致の訴え」を協議した。)
1894年 教皇レオ13世	ローマ教皇レオ13世は、聖霊降臨に関連して、一致のために八日間の祈りの実施を奨励した。
1908年 ポール・ワトソン	「教会一致のための八日間の祈り」が、ポール・ワトソン神父によって初めて行われた。
1926年 信仰と職制運動	信仰と職制運動は「キリスト教一致のための八日間の祈りの提案」を広める活動を開始した。
1935年 ポール・クトゥリアル	フランスのポール・クトゥリアルは「主の意志によってキリスト教が一致しようとする」祈りを基に包括した「普遍的なキリスト教一致祈禱週間」を提唱した。
1958年 “Unité Chrétienne”	“Unité Chrétienne” (フランス、リヨン市) と WCC (世界教会協議会) の信仰職制委員会は、祈禱週間のために資料を協同で準備し始めることとなった。
1964年 エルサレム	教皇パウロ6世と総主教アテナゴラス1世が、共にイエスの祈り「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17章)を唱える。
1964年 第二バチカン公会議	第二バチカン公会議の「エキュメニズム教令」ではエキュメニカルな運動の精神とキリスト教一致祈禱週間の遵守を促進することを強調した。
1966年 信仰職制委員会、一致推進秘書局	WCC (世界教会協議会) の信仰職制委員会とキリスト教一致推進秘書局 (現教皇庁キリスト教一致推進評議会) は、祈禱週間テキストについて公式な協同の準備を開始した。
1968年 第1回教会一致祈禱週間	第1回「キリスト教一致祈禱週間」は、「信仰職制」のテキストに基づいて行われ、それはキリスト教一致推進秘書局と協同で準備された。
1975年 地方教会による一致祈禱週間冊子	地方教会のエキュメニカル・グループが作成した草案に基づくキリスト教一致祈禱週間の冊子を初めて使用。この年の草案を作成したのはオーストラリアのグループ。
1988年 マレーシア・キリスト教連盟	マレーシア国内の主要キリスト教教派の連合のマレーシア・キリスト教連盟が大会開会礼拝でキリスト教一致祈禱週間冊子を使用。



1994年 YMCAとYWCA	YMCAとYWCAが協力して1996年キリスト教一致祈禱週間テキストを作成。
2004年 キリスト教一致 祈禱週間冊子	以後、キリスト教一致祈禱週間の冊子を、信仰職制委員会(WCC)と教皇庁キリスト教一致推進評議会(カトリック)が同一の体裁で協同制作・出版することが合意された。
2008年 100周年	キリスト教一致祈禱週間開始100周年(教会一致のための八日間の祈りが1908年に初めて行われた)。

### ◇キリスト教一致祈禱週間のテーマ一覧(1968-2012年)◇

- 1968 神の栄光をほめたたえるに至るために(エフェソ 1・4)
- 1969 自由への召し(ガラテヤ 5・13)
- 1970 わたしたちは神の同労者である(Iコリント 3・9)
- 1971 聖霊の交わり(IIコリント 13・13)
- 1972 わたしは新しいおきてをあなたがたに与える(ヨハネ 13・34)
- 1973 主よ、祈ることを教えてください(ルカ 11・1)
- 1974 すべての舌が「イエス・キリストは主である」と告白するように(フィリピ 2・1-13)
- 1975 すべてはキリストのもとに(エフェソ 1・3-10)
- 1976 わたしたちはまことの姿になるように召されている(Iヨハネ 3・2)
- 1977 ともに希望をもって屈せず(ローマ 5・1-5)
- 1978 もはや他人ではない(エフェソ 2・13-22)
- 1979 み栄えのため互いに仕えよう(Iペトロ 4・7-11)
- 1980 み国が来ますように(マタイ 6・10)
- 1981 一つの霊 多くの賜物 一つの体(Iコリント 12・3b-13)
- 1982 主こそわがやどり(詩編 84)
- 1983 イエス・キリストーこの世の生命(Iヨハネ 1・1-4)
- 1984 主の十字架は一致への道(Iコリント 2・2、コロサイ 1・20)
- 1985 キリストとともに死から生命へ(エフェソ 2・4-7)
- 1986 我が証人となれ(使徒 1・6-8)
- 1987 キリストにあってともに新しく(IIコリント 5・17-6・4a)
- 1988 愛は恐れをとりのぞく(Iヨハネ 4・7-21)
- 1989 キリストに結ばれて一つのからだに(ローマ 12・1-21)
- 1990 キリストの祈りのうちに(ヨハネ 17)
- 1991 すべての国よ、主を賛美せよ(詩編 117、ローマ 15・5-13)
- 1992 わたしはあなたがたとともにいる。だから行きなさい(マタイ 28・16-20)
- 1993 聖霊の実はキリスト者の一致を生む(ガラテヤ 5・22-23)
- 1994 神の家族・心も思いも一つにして(使徒 4・23-37)
- 1995 コイノニア・神にある交わり、お互いの間の交わり(ヨハネ 15・1-17)
- 1996 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている(黙示 3・14-22)
- 1997 神と和解させていただきなさい(IIコリント 5・16-21)

- 1998 “霊”は弱いわたしたちを助けてくださる（ローマ 8・14-27）  
1999 神が人と共に住み、その神となり、人は神の民となる（黙示21・3）  
2000 神はほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて祝福で満たしてくださった（エフェソ 1・3-14）  
2001 わたしは道、真理、いのち（ヨハネ 14・6）  
2002 神よ、命の泉はあなたにある（詩編 36・6-10）  
2003 わたしたちは、このような宝を土の器に納めています（II コリント 4・7）  
2004 わたしの平和を与える（ヨハネ 14・27）  
2005 教会の土台であるキリスト（I コリント 3・1-23）  
2006 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる（マタイ 18・18-20）  
2007 耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください（マルコ 7・31-37）  
2008 絶えず祈りなさい（I テサロニケ 5・（12a）13b-18）  
2009 それらはあなたの手の中で一つとなる（エゼキエル 37・15-28）  
2010 あなたがたはこれらのことの証人となる（ルカ 24・48）  
2011 使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることにおいて一つ（使徒 2・42参照）  
2012 わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます（I コリント 15・51-58参照）
- 

## <お願い>

この種の出版や今後の共働を推進するために、全国のキリスト者の皆様のご理解とご支援を心から期待しております。合同祈祷会の献金の一部、あるいは有志の献金を多少なりともお送りくだされば、事務局の活動の大きな励ましと支えになります。ご協力をお願い申し上げます。

## 日本キリスト教協議会

169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-24

TEL 03-3203-0372 Fax 03-3204-9495

郵便振替 00180-4-75788『日本キリスト教協議会』

## カトリック中央協議会

135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内

TEL 03-5632-4445 Fax 03-5632-4465

郵便振替 00120-7-410103『(宗)カトリック中央協議会委員会口』  
(通信欄に「キリスト教一致祈祷週間」と明記してください)

# 2011年一致祈祷週間の献金者 (順不同敬称略)

## 〈カトリック中央協議会扱い〉

愛徳カルメル修道会  
聖ヴィアンネ会  
シオフィユの幼きイエズス修  
道会  
マリア会 シャミナード修道院  
アトメントのフランシスコ女  
子修道会  
カルメル修道会 幼きイエ  
ズス修道院  
聖ヨハネ病院修道会  
カルメル修道会 カルメル  
山の聖母修道院  
聖クララ会 (上越市)  
幼き聖マリア修道会  
聖血礼拝修道会 那須修道院  
殉教者聖ゲオルギオのフラ  
ンシスコ修道会  
大阪聖ヨゼフ宣教師修道女会  
福音音楽家聖ヨハネ布教修  
道会  
カトリック京都司教区  
サレジオン・シスターズ  
山中修道院  
レデンプトリスチン修道会  
茅野修道院  
マリアの宣教師フランシスコ  
修道会  
マリアの宣教師フランシスコ  
修道会 札幌修道院  
聖パウロ修道会  
カトリック親善町教会  
聖霊奉持布教修道女会  
金沢聖霊修道院  
カトリック北11条教会  
聖霊奉持布教修道女会  
八事聖霊修道院  
キリスト・イエズスの宣教会  
ベタニア修道女会  
お告げのフランシスコ姉妹会  
カトリック北26条教会  
サレジオン・シスターズ  
カトリック南山教会  
聖霊奉持布教修道女会  
川名山聖霊修道院  
聖霊奉持布教修道女会  
豊田聖霊修道院  
カトリック織町教会  
聖体奉仕会  
マリアの宣教師フランシスコ修  
道会 戸塚第二修道院  
厳律シスター会 天使の聖  
母トラスチス修道院  
ベリス・メルセス宣教師修  
道女会  
マリアの宣教師フランシスコ修  
道会 戸塚第一修道院  
カトリック門司教会  
サレジオン・シスターズ  
別府修道院  
ベトレム外国宣教会  
カトリック岡山鳥取地区センター  
聖心の布教姉妹会  
聖心会 札幌修道院  
カルメル修道会 東京カル  
メル会女子修道院

永井和夫  
善き牧者愛徳の聖母修道会  
豊中修道院  
聖心会  
厳律シスター会 那須の聖母  
修道院  
マリアの宣教師フランシスコ修  
道会 東京第二修道院  
三輪田鶴子  
長崎純心聖母会  
サレジオン・シスターズ  
調布聖ヨゼフ修道院  
マリアの宣教師フランシスコ  
修道会 人吉修道院  
カトリック各務原教会  
マリアの宣教師フランシスコ修  
道会 北広島修道院  
殉教者聖ゲオルギオのフラ  
ンシスコ修道会 函館  
マリア院  
大桑伴子  
小嵐スズ  
厳律シスター会 灯台の聖  
母トラスチス修道院  
カトリック光教会  
聖ピンセシオ・ア・バ  
ウロの愛徳姉妹会  
師イエズス修道女会  
聖フランシスコ病院修道女会  
ケベック・カリタス修道女会  
援助修道会  
聖パウロ女子修道会 名古屋  
屋修道院  
レデンプトリスチン修道会  
鎌倉修道院  
カルメル修道会 山布修道院  
厳律シスター会 西宮の聖母  
修道院  
マリアの宣教師フランシスコ  
修道会 亀田修道院  
マリアの宣教師フランシスコ  
修道会 神戸修道院  
三位一体の聖体宣教会  
聖母訪問会  
長崎純心聖母会 八王子修  
道院  
カトリック宇部教会  
聖パウロ女子修道会  
高橋浩子  
長崎カトリック神学院  
無原罪聖母宣教会  
カトリック市川教会  
善きサマリア人修道会  
シオフィユの幼きイエズ  
ス修道会 和歌山信愛  
修道院  
シオフィユの幼きイエズ  
ス修道会 入来修道院  
マリアの宣教師フランシスコ修  
道会 東京第一修道院  
クリスト・ロア宣教師修道女会  
厳律シスター会 お告げの聖  
母トラスチス修道院  
奈良南朝教会

## 〈日本キリスト教協議会扱い〉

江東区キリスト者の会  
日本基督教団永山教会、カトリック  
高幡教会、日本キリスト教団  
袖木教会合同一致祈祷会  
藤沢市内キリスト教連絡会  
鹿児島市内諸教会一致礼拝  
徳島県キリスト教一致祈祷週間  
三条2011年一致祈祷週間  
高鍋町内諸教会一致祈祷礼拝  
福岡一致祈祷集會  
日本基督教団いずみ教会、日本  
基督教団久米田教会、和泉  
カトリック教会  
山梨県教会一致懇話会  
広島一致祈祷集會  
市野市内一致祈祷会  
山八幡キリスト教会  
西条地区超教派祈祷会  
日本基督教団経堂緑丘教会  
盛岡一致祈祷集會  
松山2011教会一致祈祷会  
キリスト教一致東京集會  
焼津市一致祈祷会  
岡山キリスト教一致祈祷会  
カトリック茂原教会キリスト教  
一致祈祷会  
高松キリスト教一致祈祷集會  
坂出、丸亀地区キリスト教一致  
委員会  
福山市内一致祈祷集會  
東京西部地区一致の礼拝  
北一一致祈祷集會  
大船渡市キリスト教一致祈祷会  
三条2010年一致祈祷 (2010年分)  
野村晋一

サレジオン・シスターズ  
静岡修道院  
カトリック宮前町教会  
長崎純心聖母会 鹿児島修  
道院  
岡崎朝拝会  
カトリック中標津教会  
アトメントのフランシスコ会  
カトリック中町教会  
カトリック半田教会  
カトリックさいたま司教区  
カルメル修道会 お告げの  
聖母修道院  
カノッサ修道女会  
青森市キリスト教協議会  
聖マリア在俗会 第1ハウ  
ス修道院  
レデンプトリスチン修道会  
西部修道院  
サレジオン・シスターズ  
世田谷修道院  
鈴木崇代  
フランシスコ会 イエズス  
の聖心修道院  
カトリック伊東教会  
聖ヨゼフ学園小学校  
イエス・カリタス修道女会  
聖心侍女修道会 五反田第  
一修道院  
神戸キリスト教一致祈祷会  
アジジの聖フランシスコ宣  
教師修道女会  
三原地区キリスト教一致祈  
祷会  
カルメル修道会 聖家族修  
道院  
日本基督教団 相模原教会・  
日本基督教団 橋本教  
会・カトリック相模原  
教会 一致祈祷会  
カトリック湯川教会  
カトリック高千帆教会  
カトリック茂原教会  
お告げのマリア修道会  
西田多日子  
ドミニコ会 聖ヨゼフ修道院  
高松キリスト教一致祈祷集會  
熊本朝拝会  
カトリック細江教会  
坂出・丸亀地区キリスト教  
一致委員会  
カトリック志家教会  
カトリック水島教会  
西湖地区キリスト教連合教  
役者会  
カトリック大阪大司教区  
カトリック麴町 聖イグナチオ  
教会  
カトリック横浜・浜沢教会 (有志)  
東播磨朝拝会  
カトリック桃山教会  
カトリック与那原教会  
細井めぐみ

「2012年キリスト教一致祈祷週間」

日本キリスト教協議会・カトリック中央協議会 共同発行